

「徐福と富士古文献フォーラム」報告

2014/07/16 報告者 伊藤健二

日時：2014年5月25日

場所：港区三田 いきいきプラザ

主催：徐福フォーラム

○『徐福・大文明集団考』～2200年前の“国際派” 梶岐一郎

- ・古事記、日本書紀が正しい歴史ではない。
- ・史記に基づく徐福東渡の概要
- ・中国歴史書に見る日本の記述
- ・日本国内の徐福伝承地
(富士古文献については触れていない)

○ 南朝と宮下文書の関わり 山地悠一郎

- ・南北朝時代、護良親王は鎌倉で処刑されたが、鶴姫は親王の首を持って富士北に行ったが、相模、甲斐には、雛姫の伝説が残されており、富士古文献にも雛姫伝説が記されている。
(徐福については、触れていない)

○ 菊池一族と宮下文書の謎 菊池秀夫

- ・偽書と呼ばれているものは、全てが偽物ではなく、事実と思われることが書かれていることがある。
- ・菊池一族は、南朝方として活躍したが、富士古文献にも登場する。
- ・延暦噴火以前に富士山麓に古代都市があったのではないかと、今後も客観的事実に基づき古代を解明したい。
(徐福については触れていない)

○ 徐福と富士古文献の関係について 前田 豊

- ・徐福集団との日本列島での広がり
- ・「秦氏」は徐福集団で、ペルシャやイスラエルの歴史を背負ってやってきた。
- ・各種の古史古伝の紹介
- ・富士古文献の成立経過

会場から質問が出ました。

「徐福一行が中国大陸が日本に来たのに、なぜ日本語は中国語でないのか。」

日本語の起源について考えてみましょう

徐福一行が本当に日本に来たのかどうかは別として、古代朝鮮半島からだけではなく、中国大陸からも日本に人がやってきて弥生文化を創ったことは、定説となっている。日本人が中国唐やってきたのであれば、なぜ日本語は中国語でないのだ。歴史的にも、高度の文明国が他の地域を支配した場合、アイヌに対する大和族のように、言語も支配している。この質問は、日本語の起源に関する問題でもあり、徐福研究者も考える必要があると思う。

言語を考える場合注意しなければならないのは、言語というのは時代とともに大きく変化することである。日本でさかもぼることができるのは、古事記や万葉集の時代の、千三百年であるが、この時代からも文法や単語、発音が大きく変化している。またこの時代、関東地方でどのような言葉が使われていたかはよくわかっていない。中国でも、今の中国語は、中原の漢民族のことばであり、揚子江地方の言葉がどうであったかは、この地方の文字はなくよくわかっていない。言語の共通性とは、現在の言語で比較するのではなく、その当時の言語で比較する必要がある。弥生時代であれば、二千数百年前の日本と中国各地の言語を比較する必要がある。しかし当時の言語が分からないので、比較は困難である。

日本語の起源については、アルタイ語族説（中部アジア）、朝鮮語同系説、オーストロネシア語族説（南方諸島）などがあり、さらにこれらの混合言語とする説があるが、いずれも「定説」には至っていない。

言語を比較する手法として、生活用語の統計的に処理する方法がある。単語の類似性は統計処理により、偶然の一致かどうか判断する手法がある。素人の研究者で、日本語と外国語の共通点を並べ、日本語のルーツはどこどこだ、と主張する方がいるが、多くは偶然の一致の域を出ない。例えば、ドイツ語の **name**（ナーメ）と日本語のナマエが似てるので、日本語とドイツ語が関係ある、とは言えず偶然の一致とみるべき。統計学的手法は、生活用語、特に目や口など、体の部分の単語の共通性を統計的の数値で比較する方法。統計学では、5%以上の一致で有意としている。

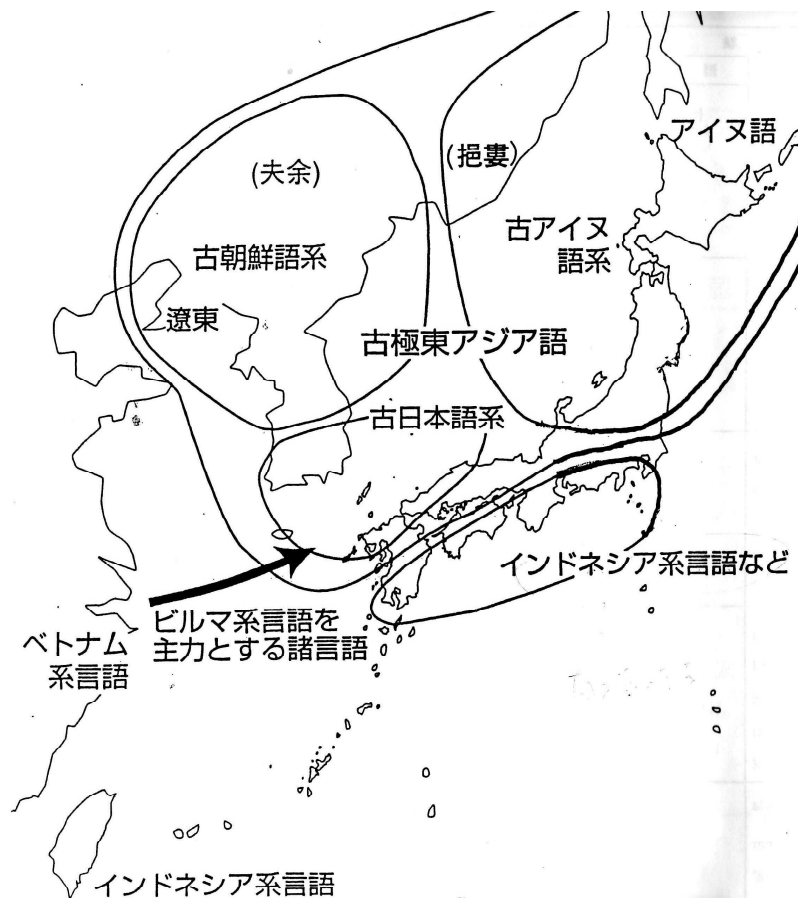
日本語と中国語は、文法が大きく異なり、また共通語も歴史時代以降借用した言葉を除くと少なく、一般的には共通点はないとされている。しかし身体の基本語（目、耳、口）など共通点があり、動詞の基本も「倒れる」、「壊れる」など発音が共通している、また、朝鮮語にはない声調があるなど、共通点を指摘する意見もある。（この部分は Wikipedia の記事であり、どこまで学術的に研究されているかは未調査）

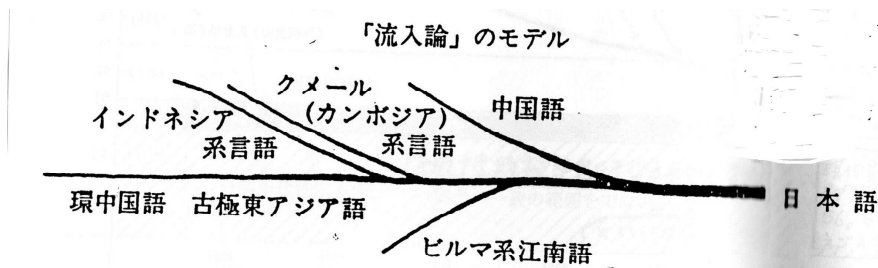
「日本民族の起源」配布資料より抜粋

講師 安本美典

日本語の起源・形成のプロセス

古極東アジア語からわかれた古日本語(日本基語)は、はじめ、北九州と南部朝鮮とにあり、ビルマ系江南語と結びついて、倭人語(日本祖語)が成立した。その言語を母胎として、大和朝廷の原勢力邪馬台国が北九州に発生し、大和朝廷の原勢力が南九州などにおよぶとともに、台湾原住民の言語アタヤル語などに関係をもつインドネシア系の言語の語彙を吸収した。さらに、その原勢力が東漸し大和朝廷をたて、その力が日本列島の各地におよぶとともに、縄文期の長年月にわたって、庶民のあいだにかなり広くひろがっていたインドネシア系の言語や、クメール(カンボジア)系の言語などをも吸収しながら、日本列島を、言語的に統一していった。また、朝鮮語は、もともとは、現代よりも北のほうで行われていたのが、南下したと考えられる。





上古日本語と偶然以上の一致のみられるもの（基礎200語）

言 語	一致が偶然 によってえ られる確率	一致数	註
東 京 方 言	***** 0.000000	157	一致が偶然によってえられ る確率は、ほぼゼロである (0.0001%水準で有意)。
首 里 方 言	***** 0.000000	121	
インドネシア語	***** 0.000145	57	0.05%水準で有意。
カンボジア語	***** 0.000544	57	0.1%水準で有意。
中期朝鮮語	***** 0.000620	53	
ロ 口 語	***** 0.005649	53	普通の統計学の基準では、 1%水準で有意である。
中国語北京方言	***** 0.008965	50	
ネ パ ー ル 語	***** 0.010315	51	普通の統計学の基準では、 5%水準で有意である。
ベ ト ナ ム 語	***** 0.015530	52	
モ ン 語	***** 0.024295	52	
シンハリーズ語	***** 0.031032	47	
ア タ ヤ ル 語	***** 0.034962	43	
ベンガーリー語	***** 0.037077	49	
ビ ル マ 語	***** 0.047021	45	
タ ヒ チ 語	***** 0.048605	37	

注：日本語の起源については、学術的にも研究されているが、定説はなく、安本先生の説も有力な説といえるが、「定説」といえる段階ではない。